

第2節 中世前期の土師器皿の諸様相 ～富山県内の城館遺跡出土遺物を中心に～

友坂遺跡において、今回の調査で、SK85 → SK86 → SK21 と変遷したことが分かる竪穴建物、かわらけ廃棄土坑 SK107、土坑 SK61、区画溝 SD37 などの遺構から 12 世紀末～ 14 世紀初頭を中心とした時期の遺物が比較的まとまった量出土した。また、昭和 56・57 年度調査、平成 4 年度調査で 14～15 世紀の方形館に伴う遺構・遺物が確認されている（婦中町教委 1984・1993）。

ここでは、富山県内の城館遺跡出土遺物で友坂遺跡の足りない部分を補いつつ、陶磁器類を含めた中世前期の土師器皿の様相を検討したい。なお、富山県内の中世前期の中世土師器皿の編年は、宮田・越前・森などによって行われている（宮田 1992・1997、越前 1996、森 2003・2005・2006）。

1 土師器皿の分類

（1）非ロクロ（手捏ね）成形

A 類 口縁部に二段のヨコナデを施す。

B 類 丸底気味の底部から一段ナデで口縁部が緩やかに立ち上がり、口縁端部に面取りを行う。

C1 類 丸底気味の底部から一段ナデで短い口縁部が強く屈曲するため、底部と体部の境が明瞭になる。口縁端部は丸く納める。

C2 類 丸底または丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境が明瞭でない。底部と体部の境から幅広の一段ナデを施し、口縁端部は鋭く仕上げるものを C2a 類、口縁端部に幅狭の一段ナデを施し、口縁端部は鋭く仕上げるものを C2b 類、器壁は厚めで口縁端部は肥厚気味に丸く納めるものを C2c 類とする。

D1 類 丸底気味の底部から体部が逆 S 字状に浅く開いて立ち上がる。二段ナデ A 類が在地化した。

D2 類 D1 類に比べ深い丸底から体部が内湾し、口縁部がそこから逆 S 字状に立ち上がる、ないしは直線的に外傾する。口縁端部は丸く納める。

E1 類 平底から口縁部が垂直に立ち上がる。

E2 類 平底から口縁部を短くつまみあげ、口縁端部を鋭く仕上げる。

E3 類 深い平底から体部が屈曲し、口縁部は外傾する。口縁部に幅広の一段ナデを施す。

F 類 深めの底部から体部が内湾し、そのまま口縁部が直線的に外傾ないしは内湾する。丸底を呈するものを F1 類、扁平な小さな平底があるものを F2 類とする。

G 類 丸底から体部が内湾し、口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は丸く納めるか小さくつまむ。

H 類 内型つくり的な成形法を用いて作られ、体部外面下半にはユビオサエの指頭圧痕が顕著に残る。口縁端部にヨコナデを施す。やや器壁が厚く丸底の H1 類、器壁が薄く平底の H2 類がある。

（2）ロクロ成形

RA 類 古代土師器碗の系譜を引く大型皿ないしは碗である。屈曲した体部から直線的ないしは内湾しながら立ち上がる。

RB 類 RA 類に比べ器高が低いもの。屈曲した体部から体部が内湾しながら立ち上がる。

RC 類 柱状高台を有するもの。高台の高いものを RC1 類、低いものを RC2 類とする。

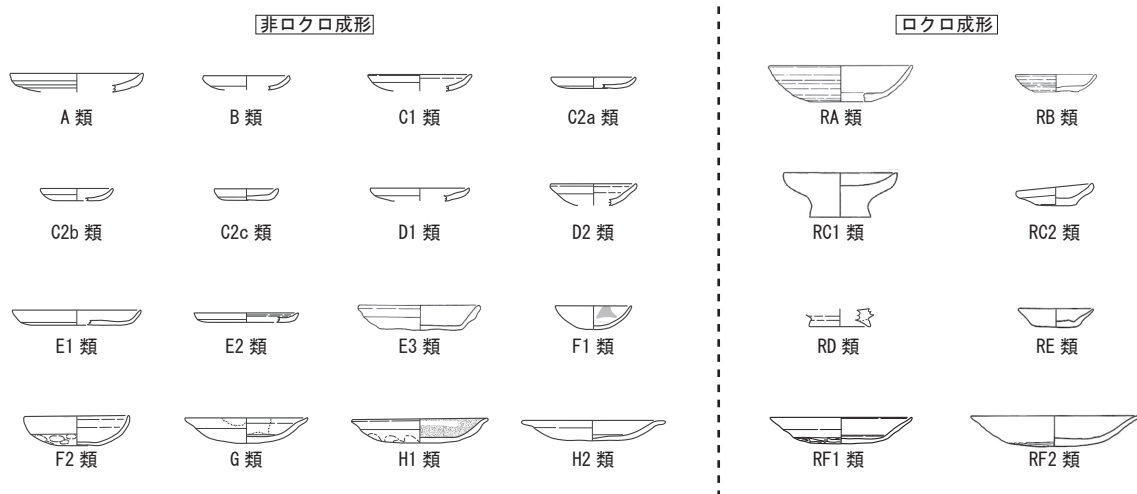
RD 類 内黒の黒色土器碗を RD 類とする。

RE 類 屈曲した体部から口縁部が外反する。

RF 類 底部外面をヘラケズリする。口縁部が内湾し、口縁端部を丸く納めるか小さくつまむものを RF1 類とし、口縁部が外反するものを RF2 類とする。RF1 類は G 類、RF2 類は H 類の器形を模倣したものと考えられる。

第14表 土師器皿の分類比較表

	堀内 2020	井口城 1990	越前 1996	森 2003・2005	森 2006
非ロクロ(手捏ね)成形	A 類		NA I 類・NA II 類	A1 類	
	B 類	B4 類	NDI 類	A2 類	
	C1 類		ND II 類	B3 類	
	C2a 類	B1 類	ND II 類	B1 類	
	C2b 類	B5 類		B2 類	
	C2c 類			Z7 類	
	D1 類		NB I 類	Z3 類	
	D2 類		NC II 類	A3 類	
	E1 類	B2 類	NG 類	B4 類	
	E2 類	B7 類	NH 類	Z1 類	
	E3 類	B6 類	NF 類	Z4 類	
	F1 類		NC III 類	B2 類	
	F2 類	B3 類	NC I 類	Z6 類	
	G 類	B8 類	N J 類	C5 類	
	H1 類	B9 類	NE 類	Z9 類	
	H2 類			Z8 類	
ロクロ成形	RA 類		RB 類	K 類	A1 類
	RB 類	A1 類	RD 類・RE 類		S7 類
	RC1 類		RA I 類		C2 類
	RC2 類		RA II 類 (RB 類)		C1 類
	RD 類				B4 類
	RE 類	A2 類	RG 類		S8 類
	RF1 類	A3 類	RF 類		S10 類
	RF2 類	A4 類	RF 類		S10 類



第31図 土師器皿の分類図

2 基準資料

今回調査から基準資料とした遺構は、堅穴建物 SK21・SK85・SK86(SK05 を含む)、溝 SD37、土坑 SK16・SK43・SK44・SK61・SK101・SK107、ピット SP23・SP84 である。個別の詳細についてはここでは割愛する。また、友坂遺跡の過去調査の遺物については、第5章第1節を参照する。

(1) 黒崎種田遺跡(富山市)

① SE48 木組井戸である。中世土師器Ⅲは、C1 類、D2 類、E3 類、F1 類、ロクロ RA 類がある。珠洲Ⅱ期、青磁Ⅲ類、古瀬戸、八尾が伴う。

② SD54 屋敷を囲む堀である。中世土師器Ⅲは、C2a 類、C2b 類、F1 類、F2 類がある。珠洲Ⅳ期、青磁Ⅲ類、古瀬戸、八尾が伴う。13 世紀中頃の中世土師器Ⅲ、珠洲Ⅱ期が混入する。

③ SE02 石組井戸である。中世土師器Ⅲは、B 類、C2a 類、F1 類、F2 類がある。珠洲Ⅳ期が伴う。

④ SE61 石組井戸である。中世土師器Ⅲは、C2a 類、C2b 類、G 類、H1 類がある。

⑤ SD50・199 屋敷を囲む堀である。中世土師器Ⅲは、C2a 類、C2b 類、F1 類がある。珠洲Ⅴ期、上田編年第四期の青磁Ⅲ、越前が伴う。

⑥ SK35・SX49 馬小屋と推測された堅穴状土坑である。中世土師器Ⅲは、C2a 類、C2b 類、G 類、H1 類がある。珠洲Ⅴ期、上田編年第四期青磁Ⅲ、越前が伴う。

(2) 新庄城跡(富山市)

⑦ 1-SD05 土塁1-SA01を伴う堀である。中世土師器Ⅲは、C2a類、C2b類、F1類、G類、H1類、H2類がある。

⑧ 1-SD04 土塁1-SA01を壊して作った溝である。中世土師器Ⅲは、C2a 類、C2b 類、F1 類、G 類、H1 類、H2 類、ロクロ RF2 類がある。珠洲Ⅴ～Ⅵ期、古瀬戸後Ⅳ期、上田編年第四～五期青磁Ⅲが伴う。

(3) 北反畝遺跡(小矢部市)

⑨ SB90・SK90・SK91 SD92に囲われた掘立柱建物SB90と建物に付随した土坑である。中世土師器Ⅲは、A 類、C1 類、ロクロ RA 類、RB 類がある。珠洲Ⅰ期、白磁Ⅲが伴う。

(4) 弓庄城跡(上市町)

⑩ F 地点 SD511 屋敷を囲む堀である。中世土師器Ⅲは、B 類、C1 類、D1 類、E1 類がある。珠洲Ⅱ期が伴う。

(5) 梅原胡摩堂遺跡(南砺市・旧福光町)

⑪ SK1283 堅穴状土坑である。中世土師器Ⅲは、B 類、C1 類、D1 類、E1 類、E3 類がある。珠洲Ⅱ期、青磁Ⅲが伴う。

⑫ SK1306 廃棄土坑である。中世土師器Ⅲは、B 類、C1 類、E1 類、E3 類がある。珠洲Ⅳ期が伴う。

(6) 田尻遺跡(南砺市・旧福光町)

⑬第2次SD87・SK141 屋敷を囲む堀、堀と連結する土坑である。中世土師器Ⅲは、C2a 類、C2c 類、D2 類、E1 類、E3 類がある。珠洲Ⅳ期が伴う。SD86 下層溝 SD26 の遺物である 12 世紀中頃の中世土師器Ⅲ、珠洲Ⅰ期、白磁Ⅲが混入する。

(7) 井口城跡(南砺市・旧井口村)

⑭ SK23 土坑である。中世土師器Ⅲは、B 類、C2a 類、E1 類、E3 類がある。珠洲Ⅲ期が伴う。

⑮ SD5 曲輪の堀である。中世土師器Ⅲは、C2b 類、E1 類、H2 類、ロクロ RE 類、RF1 類、RF2 類がある。珠洲Ⅴ～Ⅵ期が伴う。旧堀の遺物である 14 世紀前半の中世土師器Ⅲ、八尾が混入する。

⑯ SD7 曲輪の堀である。中世土師器Ⅲは、E1 類、H1 類、H2 類、ロクロ RE 類、RF1 類、RF2 類がある。旧堀の遺物である 13 世紀後半の中世土師器Ⅲ、珠洲Ⅲ期、青磁Ⅲ類が混入する。

⑰ SK15 かわらけ廃棄土坑である。中世土師器Ⅲは、ロクロ RE 類、RF2 類がある。

(8) 藪田薬師中世墓(氷見市)

⑩中世墓 出土地点がわかる中世土師器皿のみ抜粋。E1 類、F1 類、G 類がある。

3 編年概要

ここからは、第32図・第33図に示した土師器皿の編年案について記述する。なお、大画期は宮田編年の画期に基づくものとする。友坂遺跡では宮田Ⅱ期(12世紀後半～13世紀前半)から土師器皿が確認できることから、宮田Ⅰ期(11世紀中頃～12世紀初め)は今回除外するとする。

宮田Ⅱ期(12世紀後半～13世紀前半、小画期3期)

珠洲Ⅰ～Ⅱ期、大宰府D～E期の白磁、同安窯青磁、龍泉窯青磁が伴う。

12世紀中頃から後半は非ロクロA類、C1類、ロクロRA類、RB類、RC1類が存在する。口径は8.0～9.4cm、10.8～15.8cmの大小があるが、バラツキがみられる。12世紀末～13世紀初頭になると、非ロクロには、口縁端部に面取りするB類、二段ナデA類が在地化したと考えられるD1類、一段ナデのC2a類、E1類などが出現する。A類はこの頃には喪失する。ロクロ土師器は徐々に減少し、内黒RD類はこの頃に喪失する。口径は6.0～9.0cm、14.0～17.8cmの大小があるが、バラツキがみられる。13世紀前半には、非ロクロ土師器には前小画期で出現したものに加え、E1類から派生したE2類、口径が大きく器高が2cmを超える大法量のD2類、E3類、F1類、F2類が出現する。大法量のD2類、E3類、F1類、F2類の出現とともにロクロRA類は減少する。口径は6.6～9.0cm、10.8～12.0cmの大小がある。口径の大きいものは前小画期に比べ縮小傾向がみられ、口径が11～12cm付近にまとまりを見せる。小7～9cm台、大11～12cm台という法量の二分化が明瞭になる。

宮田Ⅲ期(13世紀後半～14世紀前半、小画期2期)

珠洲Ⅲ～Ⅳ期、大宰府F期の口禿げ白磁、龍泉窯青磁が伴う。

概ねⅡ期から継続する器形がほとんどで、在地化したと考えられる。13世紀後半にC2a類のナデ幅を狭くした(一段ナデの簡略化した)C2b類、器壁が厚くなったC2c類が出現した。ロクロ土師器は13世紀後半頃に姿を消す。B類、C1類、C2c類、E3類、F2類は14世紀前半で姿を消す。口径はⅡ期で明瞭となった法量の二分化が維持され、口径は小6～9cm台、大11～14cm台(主に11～12cm台)が主体をなしている。

宮田Ⅳ期(14世紀後半～15世紀前半、小画期2期)

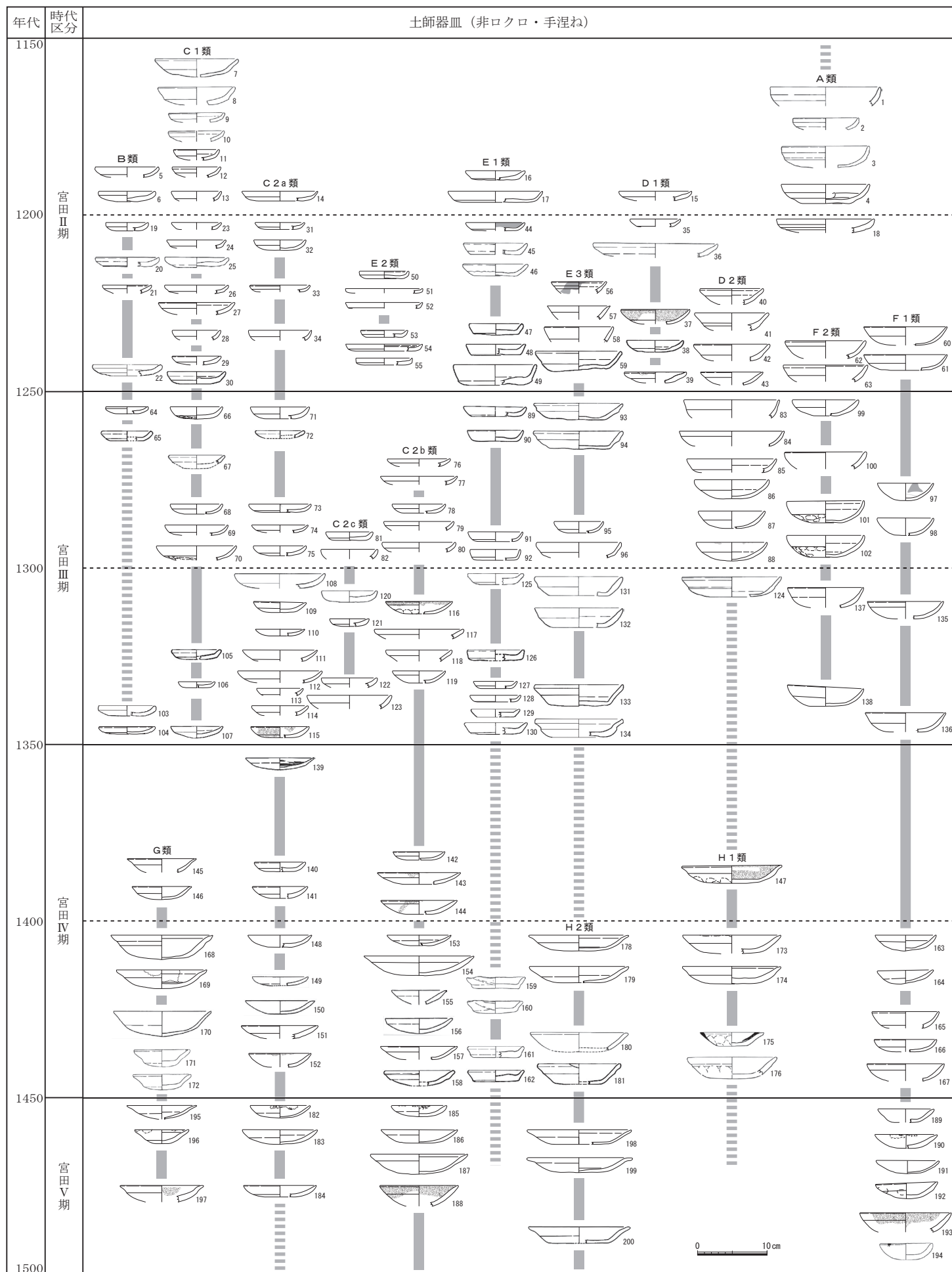
珠洲Ⅳ～Ⅴ期、大宰府G期の龍泉窯青磁、八尾、古瀬戸が伴う。

Ⅲ期から器形に大きく変化が見られるが、C2a類、C2b類、F1類はⅢ期から継続する器形である。14世紀後半に北山文化が越中に浸透していたことを物語る金付き土器が黒崎種田遺跡から出土しており、北山文化の浸透とともに京都系土師器皿の影響を受けた内型づくりで成形したH類が出現する。H1類はD2類、H2類はE3類を祖型としたと考えられる。丸底から口縁部が外反するG類も出現する。また、15世紀前半にはロクロ土師器が再び出現する。口径は小7.2～9.9cm、中10.8～11.8cm、大13.8～15.6cmの大中小が確認でき、Ⅲ期にはあまり見られなかった14～15cmの大皿が増加する傾向にある。

宮田Ⅴ期(15世紀後半～16世紀初め)

珠洲Ⅴ～Ⅵ期、上田編年第四～五期の青磁、古瀬戸が伴う。

概ねⅣ期から継続する器形がほとんどである。15世紀後半の土師器について、筆者が近世成立期の土師器皿の編年(堀内2019)のⅠ期に該当し、その中で分類した「在地系A類」はC2a類、C2b類、「在地系B類」はE1類、「京都系土師器C1類」はH2類から派生するものが該当するものと考えられる。口径はⅣ期同様に小7.6～10.3cm、中10.6～11.8cm、大13.0～15.0cmの大中小が確認できる。(堀内)



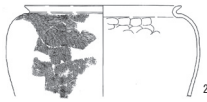

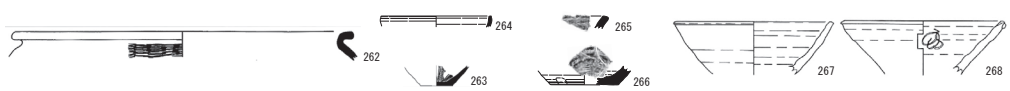
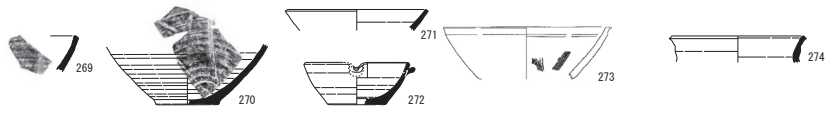
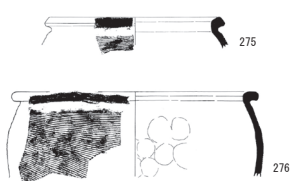
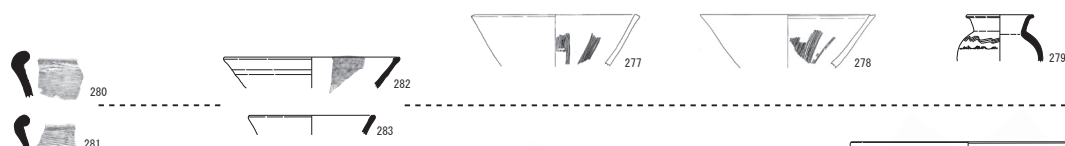
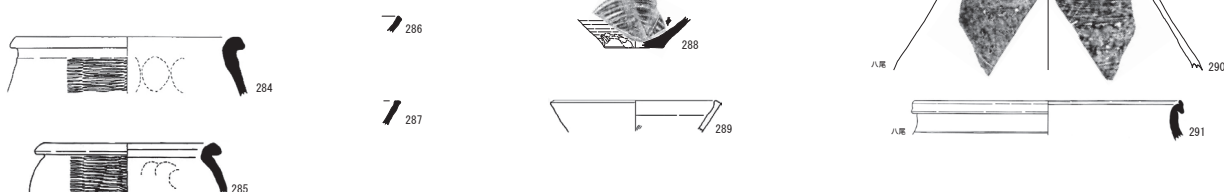
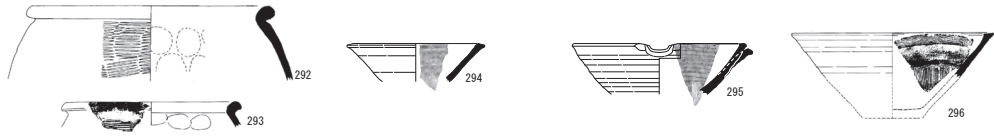

第 32 図 土師器皿の編年案

友坂遺跡：(SD37) 6, 13, 15, 17, 71, 83, 99, 111, 112, 118, 119, 202, 241, 242 (SK16) 18, 35, 41, 55, 63, 106, 113, 114, 122, 123, 209 (SK21) 11, 12, 76, 77, 85, 100, 214 (SK43) 238 (SK44) 66 (SK61) 28, 34, 53, 54, 57, 62 (SK85) 19, 23, 24, 31, 32, 44, 206, 207, 211 (SK86・05) 21, 26, 27, 33, 40, 50 ~ 52, 56 (SK107) 4, 14, 16, 68 ~ 70, 73 ~ 75, 78 ~ 82, 86 ~ 88, 90, 91, 95 ~ 98, 101, 102 (SK101) 213 (SP23) 5, 240 (SP84) 210 (農道 SD04) 64, 212 (農道 SD05) 117 (農道 SD06) 84, 110, 121, 229 (1 次 SD21) 149, 150, 155, 156, 170, 200 (1 次 SD22) 246 (1 次 SE41) 239 (2 次 SD126) 139 (2 次 SK151) 205 (4 次 SD01) 235, 253, 254 黒崎種田遺跡：(SE02) 104, 115, 136, 138 (SE48) 29, 37, 42, 58, 60, 61, 208, 243 (SE61) 140 ~ 147 (SD50・199) 151, 152, 157, 165 ~ 167, 247 ~ 249 (SD54) 39, 43, 109, 116, 135, 137, 227, 228, 245

ロクロ土師器皿	古瀬戸	白磁	青磁	時代区分	年代
 				大宰府D期	1150
				大宰府E期	1200
				大宰府F期	1250
				大宰府G期	1300
					1350
 				上田編年第四期	1400
 				上田編年第五期	1450
					1500

第 33 図 ロクロ土師器・古瀬戸・貿易陶磁の編年案

黒崎種田遺跡：(SK35・SX49) 184, 188, 192, 193, 197 新庄城跡：(1-SD04) 182, 183, 185 ~ 187, 189 ~ 191, 195, 196, 198, 199, 221, 230 ~ 234, 250 ~ 252
 (1-SD05) 148, 153, 154, 163, 164, 168, 169, 173, 174, 178, 179 北反畝遺跡：(SB90) 2, 3, 8 (SK91) 9, 10, 201, 203, 204 弓庄城跡 F 地点：(SD511) 20, 25, 36, 45, 46
 梅原胡摩堂遺跡：(SK1283) 22, 30, 38, 47 ~ 49, 59 (SK1306) 103, 107, 129, 130, 133, 134 田尻遺跡 2 次：(SD87) 1, 7, 124, 131, 132, 236 (SK141) 108, 120, 125
 井口城跡：(SD5) 105, 126, 158, 162, 181, 217, 220, 222 (SD7) 87, 161, 175, 176, 180, 215, 216, 218, 219, 237, 244 (SK15) 223 ~ 226 (SK23) 65, 72, 84, 89, 90, 93, 94
 薮田薬師中世墓：159, 160, 171, 172, 194

年代	時代区分	珠洲・八尾
1160	I ₂ 期	
1180	I ₃ 期	
1200	II ₁ 期	
1225	II ₂ 期	
1250	III期	
1280	IV ₁ 期	
1320	IV ₂ 期	
1360	IV ₃ 期	
1380	V期	
1450	VI期	
1480	VII期	
1500		0 20 cm

第 34 図 珠洲・八尾の編年案

友坂遺跡：(SD37) 265, 266, 288, 290 (SK61) 269, 270 (SK85) 264 (SP23) 257, 258 (農道 SD06) 286 (1次 SD21) 292 (1次 SD22) 284

(1次 SD25) 262, 263 (2次 SD129) 285 (4次 SD01) 256, 299 黒崎種田遺跡：(SE02) 287 (SE48) 271 (SK35) 274 (SD50) 279, 294, 295

(SD54) 272, 280 ~ 283 新庄城跡：(1-SD04) 297, 298 北反畝遺跡：(SK91) 259, 260 (SD92) 261 弓庄城跡 F 地点：(SD511) 267, 268

田尻遺跡 2次：(SD87) 255, 277, 278 梅原胡摩堂遺跡：(SK1283) 273 (SK1306) 289 井口城跡：(SD5) 291, 293, 296, 300 (SD7) 275 (SK23) 276